



# 男女共同参画 推進室

香川大学は、2010年4月15日付けで、香川労働局長の認定(香川県内で9番目)を受け、次世代認定マークを取得しました。この認定を励みに、さらに仕事と子育ての両立支援の充実を図っていきたくと決意を新たにしました。



室員  
深田 由佳

## 仕事も家庭も あきらめない！

特任教授  
長安めぐみ

**研** 研究者の生活」というと、どんなイメージを思い浮かべますか？学生の指導をして、自分の研究をして、論文をまとめて学会に出て…ではプライベートは？

「実は大学の女性研究者の約半数が、単身赴任を経験しているんです。共働き夫婦で互いのキャリアを大事にしようと考えると、「週末婚」のようになる場合もあります。あまり知られていませんが女手一つ、男手一つで子どもを育てている方も結構いるんですよ」

意外な研究者の姿を教えてくださいましたのは、2010年10月に香川大学幸町キャンパスの北5号館1階に誕生した「男女共同参画推進室」のコーディネーター・長安特任教授。これまでプライベートなこと、自分で解決すべきことと思われがちだった子育てや介護について、情報提供や相談を受け付けるのがこの推進室の主な仕事です。実際に保育施設におもむいて詳しい情報や手続きの方法を集めたり、必要な社会資源を探し出し利用できるように調整したり、その活動は大学内にとどまりません。

先ほどの例一つからも分かるように、研究者の子育ては考える以上に変化。香川県は「町がコンパクトにまとまっており、住みやすく社会支援もしっかりしている」という利点はあるものの、親戚や知人がいない香川県にぽつんとやって来た研究者は、働きながら子どもの保育所を探したり病院へ連れていったりしなければならず、これまで大きな不安や負担を抱えていました。また、「子どもがほしい」と思っているにも、ポストドクなどの任期付きの立場にいると子どもを作ることをためらうケースも…。特に理系の女性研究者の数が少ないのは、採用枠の問題と、出産までのハードルの高さや、家族の転勤など周囲の事情に影響をうけて働き続けることをあきらめてしまつたためと考えられています。

この現状を変えるべく、国は「第4期科学技術基本計画案(2011年から4年間)」で、女性研究者採用の目標を自然科学系で25%、工学系15%・農業系30%の早期達成と医学系での30%達成を設定。大学でも女性のライフイベントや将来設計について管理職を交えた意見交換会やネットワークづくりが行われるようになってきました。女性研究者や職員が働きやすい環境を作るといことは、男性にとってもワークライフバランスのとれた働きやすい職場を作るといこと。また、働きやすい環境作りは理系の女子高校生や学生、大学院生に将来の女性研究者への道をひらくことにも繋がります。

さらに、これからの課題としては独身で頑張っている人へのサポートがあります。独身者が生活を楽しむゆとりをもって働き続けられるようどうサポートしているか。誰もが「リフレッシュのため休みます」と言えること、自分や家族を大事にし、元気に働き続けられるよう応援していくことが真の男女共同参画なのです。

男性・女性、学生、教員、職員、独身、子育て中、介護中…それぞれ立場や事情が違う人を孤立させることなく、点と点を結び面にしていくのが男女共同参画推進室の目下の課題。現在はホームページを利用したコミュニティを製作中です。

「研究者の方はそれぞれの分野のスペシャリスト。その知恵や力をどうお借りしていくかが香川大学の男女共同参画のこれからを決めます」と長安特任教授、お互いが尊重しあえる社会をめざし、その活動は始まったばかりです。

(香川大学男女共同参画推進室HP)  
<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/>  
※ポストドク…大学での博士号を取得した後、任期付きの立場で研究職として働いている研究者や、そのポスト自体を指す。

### KEYWORD

#### 「ワークライフバランス」

仕事と生活の調和を指す。具体的には「労働による経済的自立が可能な社会」「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」「多様な働き方・生き方が選択できる社会」も研究者であることが多いため、大学のワークライフバランスを推進すれば効果的に「働きやすい職場」を作ることが期待できる。